

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-770/77C	12-078	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking and non-Hodgkin lymphoma risk: a systematic review and a meta-analysis. 飲酒と非ホジキンリンパ腫のリスク：システマティック・レビューとメタ分析		
執筆者		
Tramacere I, Pelucchi C, Bonifazi M, Bagnardi V, Rota M, Bellocco R, Scotti L, Islami F, Corrao G, Boffetta P, La Vecchia C, Negri E.		
掲載誌		
Ann Oncol. 2012 Nov;23(11):2791-8. Review.		
キーワード		
飲酒、非ホジキンリンパ腫、システマティック・レビュー、メタ分析		
要 旨		
目的： 飲酒と非ホジキンリンパ腫（NHL）のリスクとの間に関連があるかどうか未解決な問題となっている。その問題を定量化するために、我々は公表されたデータのメタ分析を行った。		
方法： 我々は、21 のケースコントロールと 8 つのコホート研究を特定した。18,759 例の NHL 症例が含まれた。飲酒量の概算値と NHL との間の相関を考慮したランダム効果モデルを用いてメタアナリシスを行った。		
結果： 飲酒者と非飲酒者の NHL の全体の相対リスク（RR）は、0.85 で 95%CI は 0.79-0.91 であった。非飲酒者との比較において、軽度の飲酒者（1 日 1 ドリンク未満）は 0.88、中等度（1 から 4 未満ドリンク）では 0.87、過度の飲酒者（4 ドリンク以上）では 0.84 であった。コホート研究において、軽度の飲酒者との比較では関連性はなかったが、中等度の飲酒と大量飲酒の RR はケースコントロール（0.85 と 0.92）とコホート研究（0.89 と 0.79）で同様であった。アルコール消費の飲酒者と非飲酒者の逆相関は、男女とも同様であった（男性：0.83、女性：0.86）。しかし、アジアからの研究においては、他の地域よりも強い傾向がみられた（アジア地域：0.69、その他の地域：0.88）。		
結論： 生物学的な説明が欠如しているために結果の解釈する上で注意が必要であるが、このメタ分析では、飲酒は非ホジキンリンパ腫のリスクを軽減する“いい効果がある”という結果であった。		